
哀愁ボインブルース

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

哀愁ボインブルース

【Nコード】

N3605J

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

特にエロい話ではないです。ごめんなさい。ルーチカは閲覧禁止。夜兎はよし。

(前書き)

不況に生きるすべての人に捧げるハートフルコメディ。

ふん。エロいやつめ。タイトルにつられやがったな。このど助平め。あいにく、エロい話じゃねえんだ。ざまあみろ。

これはある一人のメタボリックな塾講師の悲しいお話である。実話である。

塾の生徒が、おっぱいをもませてくれと塾講師に頼んだ。

「女の先生に頼めよ」

「恥ずかしいからやだ」

仕方ないので、塾講師はネクタイを外しシャツを脱ぎ、豊満な胸を生徒の前に差し出した。

「ああ。やわらけえ。さすが先生。だてにメタボリックじゃないね」
「ふん。嬉しくも何ともない。あ。気持ちいい」

塾講師は胸をもまれながら泣きそうだ。なにしろ、塾講師は非正規労働者で結婚ができない。風俗に行くカネもない。だから、生徒にもますことはできても、自分はおっぱいをもむことができないのである。

居酒屋で死ぬほど酒を浴びていた。

「ういゝおっぱいもみたいよう」

「先生やめなよ。死ぬよ」

「もみたいよウ」

切ない願いである。虚しい叫びである。いつそのこと、女子生徒に頼んでもませてもらうか。しかし、それは犯罪である。児童セクハラ禁止法違反である。懲役五十年である。あるいは罰金五百億円である。

しかし、塾講師は思った。これは小説なのだから別にいいんじゃないか。犯罪にはならないのではないか。だって、実際にもむわけじゃない。紙の上で遊ぶだけなのだ。

翌日、授業中にボインの女子生徒にダメもとで頼んでみた。

「なあ流知佳^{るちか}。おっぱいもませてくれないか」
女子生徒は答えた。

「五万円くれたらませてもらえる」
夢ははかなく散った。そんなお金ない。そんなお金があれば、風俗に行ってる。

「なあ梨花。おっぱいもませてくれないか」
女子生徒は答えた。

「うまい棒買ってくれたらいいよ」
それは買える。十円だもん。
しかし、ふと思う。

梨花は小学一年生。ぺちゃぱいだからもめない。
もめない！もむにはそれなりの張りと弾力が必要だ。
塾講師は居酒屋で死ぬほど酒を浴びた。

「おっぱいもみたい！おっぱいもみたい！おっぱいもみたい！」
自分のをмонでみるかとふと思った。
しかし、プライドが許さない。そんなことをするくらいなら死んだ方がマシだ。いやだ。死にたくない。

仕方ないので家に帰り、肉まんを二個用意して机の上に置き、もんでみた。

「あまり楽しくない。というより、切ない」
絶望的だ。神も仏もないのか。いたとしてもきつとイスラム教に違いない。

おっぱいもみたい。おっぱいもみたい。おっぱいもみたい。
おっぱい、めっさ、ごっさ、もみたい！！！！

塾講師は決心した。痴漢をしよう。
電車に乗った。前にむっちゃボインの女が立っていた。問題はど
うやってもむかだ。焦りすぎてわちゃわちゃやっているとすぐに駅員
さんと呼ばれ、じつくりもむことができない。うーむ。

ひとまず、塾講師はエアもみもみをした。何事も練習あるのみ。
必死に汗を流し、空中をもみもみもみ。何回も何回も。そう。イチ

ローのイメトレ素振りのように。

やってるうちに外は暗くなってきて、すでに女は降りていた。ああ！

塾講師は悲しくて悲しくてやりきれない。こんなにもボインを求めているのにボインは振り返ってくれない。「おい！ボイン！」と叫ぶほどに、逃げて行く。

塾講師は居酒屋で死ぬほど酒を浴びた。

ボインよ！ボインよ！ボインよ！

この悲しい気持ちを記録に残そうと思い、レコーディングスタジオに籠り、「哀愁ボインブルース」という曲を作曲した。奥田民生と桑田佳佑がそれいいじゃんと言って演奏してくれた。

まあいいならリリースしとくかと思った。

すると、あれよあれよという間に、オリコン一位！

しかも、全米でも五週間連続ナンバーワンのダイヒット！

カネががっぱがっぱ入る。次から次へと印税が入る。こいつはいい。このカネで風俗に行こう。

しかし、同時にライブの依頼が殺到。朝から晩までライブライブライブ。ある時は健康ランドで、ある時は国技館で。とにかくもー忙しすぎて風俗に行く暇なんてありやしない。

塾講師は居酒屋で死ぬほど酒を浴びた。

「おっぱいもみたーいーい！！」

すると、隣で飲んでいた女が「もむ？」と言ってくる。マジ？

「いいの？」

「だってかわいそうなもの」

いよいよ。いよいよもむのか！

いざもむとなると、その何というのか。

緊張してきた。変な汗がだらだら流れる。ひざがガクブルだ。これはいかん。こんなひどい気持ちじゃもんでも気持ちよくない。

塾講師は、気を鎮めるためにお寺に行き座禅をした。和尚さんが、金属バットでえいと塾講師の肩を叩いた。「いてえ！」

滝にも打たれた。「うわあああ。つめてえええええ」

そしてやっと精神が落ち着いてきて立派な僧になったので居酒屋に戻った。

すると、もう女はいなかった。

何でだよ！ひどいよ神様！どういふことだよ！！！！

塾講師は、悲しみのあまり、外をふらふら歩いた。もう何も信じられない。これが不況というやつか。冷たすぎる。なんて冷たい世の中なんだ。通行人に「ボインのバカ！」とか吐き散らす。

みなさん。誰か塾講師にボインをもませてあげるといふ人はいますか？

と告知もしてみた。

すると、意外に手紙が殺到。

しかし、どの手紙も、相撲取り相撲取り相撲取り……。

相撲取りになぜか人気の塾講師！！！！

神も仏もないのか！ひどい世の中だ！狂ってる！！！！

かわいそうに思ったのがボインの神である。ボインの神は塾講師の様子を見ながら名案がひらめいた。

「ようし。いい考えがある」

ボインの神は塾講師の前に出た。

「なんだこのじじい」

魔法をかけた。

「くるくるどーん！！！！」

すると、塾講師はどんどん縮んで行き、服がぶかぶかになり、しまいには赤ちゃんになってしまった。

「おぎゃあ。おぎゃあ」

お母さんが走ってきて、赤ちゃんを抱えた。

そして、和服を脱ぎ、見事なFカップを赤ちゃんに差し出した。赤ちゃんは貪るようにお母さんの乳首を吸いまくり、おっぱいをもみまくった。

「オレは生きるんだ！」と言わんばかりに。

「痛い！乳首かむな！！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3605j/>

哀愁ボインブルース

2010年10月8日14時40分発行